



五島八十八カ所お堂めぐりテキスト  
**空海の島**





- 福江地区 1番～50番
- 岐宿地区 51番～57番、65番～73番、81番
- 三井楽地区 58番～63番
- 富江地区 74番～77番
- 玉之浦地区 64番、78番～80番、82番～88番

# 五島札所 全体マップ



# お堂のおはなし

古代より海の道の要として、日本最後の遣唐船寄泊地である福江島には、弘法大師ゆかりの地として祖先から受け継がれたお堂が福江島全体に点在しています。

地藏堂、観音堂、行者堂、阿弥陀堂、薬師堂は現在まで、地域の住民によって大切に守られてきました。そこは、祈りの場であり、女性の語らいの場、そしてやすらぎの場でもあります。

「お大師様」の日には、お接待。毎月20日に行う「はつかさん」、24日に行う「にじゅうよっかさん」、新暦の9月1日と2日は「おとや」（お通夜と書いて「おとや」という）のお祭りもあります。

今となっては、お堂の担い手の高齢化によって、五島の貴重な「祈りの文化」が利用される機会が減りつつあるとともに、次世代への継承もいよいよ難しくなってきました。

お堂を通して、祖先が守ってきた息づかいを少しでも感じていただければと思います。

平成28年10月

NPO法人アクロス五島 編集部

先人が、いにしえより、  
守ってきたもの。

# お堂

2番

## 明星院護摩堂

●本尊 不動明王 ●ご真言 のうまくさんまんだばざらだん せんだまかろしゃだそわたやうんたらたかんまん ●行事 お大師様(新) 4月21日



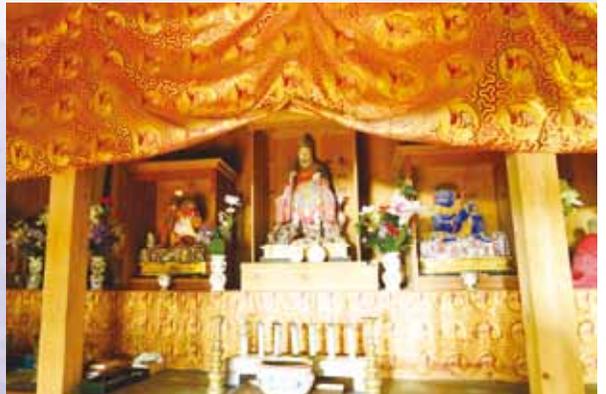
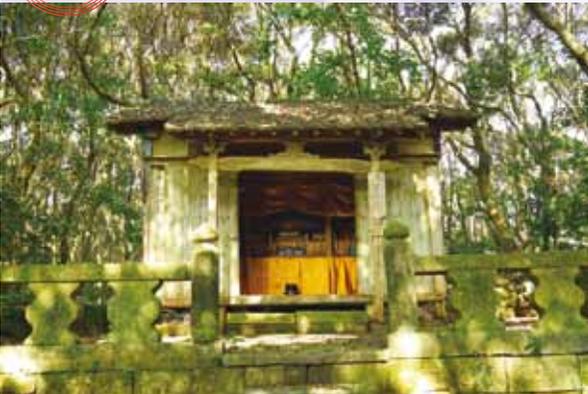
新の4月21日にお大師さんをする。いつも祀っているお大師さんの像はそのままでお参りしてもらおう。尊影(おみえ)を護摩堂の真ん中に出して供養をする。供養の時間は10時から10時30分ぐらい。供養の後にはまんじゅうを配る。供養にはそんなに参加する人はいないが、一日の間にお参りに来る人はそれなりにいる。お接待もしている。総代さんの奥さんたち7,8名に来てもらい、ササゲの御飯、おそば、酢の物、煮しめの4品を作る。平均250名から300名分ぐらい作る。そしてここ(庫裡)で食べてもらう。前日から準備をして朝早くから炊き始める。だいたい10時ぐらいからお参りに来る。総代さんたちは外で参拝者の相手をしてもらい、女性はお接待の方を担当する。

(2016年3月2日 住職の話し 住職のお母さんのお話し)

4番

## 明星院行者堂

●本尊 南無神変菩薩  
●ご真言 なむ じんぺん だいぼーさー



以前は久木山の人たちが明星院にお参りに行った帰りに山に登り、行者堂に寄って掃除をしたりしてから久木山の方(鎮守堂)に下りて来ていました。しかし、今は地区の人は誰も行者堂にはいかないようです。

### ▶名所・旧跡

・行者堂に向って右の方に50mほど行ったところに高さ80cmほどの、男性器をかたどった石碑があります。



1人の女性の方が何十年となく、長いこと地蔵堂の世話をしてくれていましたが、その方が亡くなった後は町内会の役員さんたちで世話をしているそうです。お接待はしていません。

### ▶名所・旧跡

#### \*観音寺の元あった場所

源平の乱の折り平家の落人が本尊の十一面観世音菩薩の像を持って来島し、吉田郷に住んで寺を建立したという。そのゆえか、この地区には寺脇姓の家があります。

#### \*善章について

彼は京都に住む、すぐれた僧であったが30才ごろ祇園の舞妓（まいこ）のもとに通うことが発覚して破戒の罪で五島へ流罪となった。しかし、彼は文化人でもあったので五島家の殿様の要請で和歌、茶の湯の相伴を勤めることもあり、何不足なく生活していたという。彼の墓は吉田町の墓地にある。僧侶の墓の形で墓碑銘には「全正」という漢字になっている。

#### \*五島氏庭園

五島氏の庭園は京都の僧であった善章が盛成（もりあきら）公の依頼によって1856（安政3）年に完成した林泉式庭園で、金閣寺の丸池を模倣して作ったという。善章は庭園造りが巧みであったという。池は心の字をかたどって作っているのので「心字が池」と呼ばれる。盛成がカメをことのほか好きだったのであちこちに亀に似た石を配置している。庭園は1991（平成3）年11月に国の名勝の指定を受けました。

6番

## 久木山鎮守堂

- 本尊 弘法大師
- ご真言 なむ だいし へんじょう こんごう



以前は老人会でお堂の世話をしていましたが、老人会は現在解散しているということです。今は10名（男2、女8）ほどで維持・管理しています。毎月1回集まって掃除をし、終わったらお茶を飲んでお話しをしてかえります。

お堂の中に石碑がありますが、明星院のお坊さんが久木山の発展を祈って、35日間修行をして亡くなった跡に建てられていると地区の人達は信じています。

### ▶名所・旧跡

#### \*宥尊上人について

宥尊上人は明星院の第13代法印であった。久木山には物の怪が現れて人に害を加えたので、それを鎮めるために生きながら成仏したという。彼は地下に室（むろ）を作り、1本の竹の管を通して息抜きとし、鐘を叩きながら遷化したといわれています。その期間は7日とも10日とも言われている。彼の遷化の場所に建てられている墓には次の文字が刻まれている。「為当院中興開山法印宥尊上人菩提 寛永十年癸酉十月六日」（福江市史）＜寛永十年=1633年 癸酉=みずのととり＞

7番

## 久木山地蔵堂

- 本尊 地藏尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



鎮守堂を掃除する時一緒に月一回掃除をし、酒を供えているということです。

## ▶名所・旧跡

### \*明星院一夜住職の墓

1634（寛永11）年、第22代盛利の時代、五島家の宇久での菩提寺である東光寺住職順堯和尚は女犯の疑いをかけられ、召し捕りに来た船を前にして東光寺に火をつけ自害した。そのとき「大久保末代、殿七代」と、呪いの言葉を吐いたという。この呪いの故か、藩主には短命の者が多く、天変地異もこの和尚のタタリとされた。第25代盛暢（もりのぶ）の弟又次郎は大坂で出家し大僧都（だいそうず）の位にまでのぼったが、病をえて五島へ帰って来た。彼は久木山に「大聖院」を建てて順堯の霊を弔っているうちに病が重くなり25才で亡くなった。盛暢は又次郎の生前に19代明星院住職の印可を与えた。それも、ただ生前一夜のみであったから「明星院第19代一夜住職」という。五島において大僧都の位までのぼったのはこの人だけです。現在大聖院はない。墓は畑の隅にあり「大聖院了順大僧都」と刻まれている（福江市史）→しかし、墓には「大僧都了順大和尚」とある。

### \*五島編年史寛永八年（1631年）

「冬、朝鮮役ノ捕レ人、役仁右衛門久木山ニ来リ住ス、今、コレヲ以テ久木山部落開拓ノ祖トナス。高麗ヲ以テ姓トセリ。尚、小浦ト改メタル者アリ。

クギ、久木山ハ全国ニ散在シ、モト燃料採取ノ地ナラン。県下ニ又、壱岐、口ノ津等ニモ同名ノ地アリ。」



8番

## 三番町地藏堂

- 本尊 地藏菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日 紅白饅頭やお菓子の接待



以前は町内会の有志で地藏堂の世話をしていたそうですが、現在は町内会で世話人を募って10人ぐらいでお世話しています。毎日お茶、お水を替えているほか、巡礼さんが困らないように線香やロウソクも用意してくれています。

新の4月21日には婦人会と10人の世話人が協力してお接待をしています。紅白饅頭やお菓子を袋に入れて渡していますが、小学生でも手を合わせて祈ってくれるだけでお菓子や饅頭を配っているということです。

<名所・旧跡>

\*嘯月園 (しょうげつえん)

第30代藩主盛成 (もりあきら) が「茶亭」として1841 (天保12) 年に造った。築城中、外敵の進攻を仮定し、防備を兼ねた二面性を有する「詰めの城」として作られたものといわれる。嘯月とは月を友として自然や詩歌を楽しむこと。

\*荒神岳には山頂に祠と井戸、中腹には牛の神様としてあがめられている大日如来を祀っている祠もある。市史) <寛永十年=1633年 癸酉=みずのととり>

**9番 二番町地蔵堂**

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待あり



以前は二番町で地蔵堂の掃除割り当てもしていたようですが、現在は女性の方4~5名ほどで世話しているようです。お茶をあげたり、花を供えたり、線香をたてたりしています。新の4月21日にはお接待もしていますが、お参りに来てくれる人たちも高齢者が中心であるため、年を経るごとに減少しているようです。

▶名所・旧跡

\* (二番町の本道は) 以前はがたがたで、狭い道を鉾山のトラックが通っていた。それで道幅を広げる工事があった。これで家の石垣を取り払った。次には歩道を作るためにまた敷地をとられた。2度にわたる工事で石垣はなくなった。

**10番 一番町地蔵堂**

- 本尊 地蔵菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日 お菓子のお接待



ここの地蔵堂の世話をなさっている女性は毎朝お茶を供え、夕方にはお茶を下げに行きます。新の4月21日にはお大師さんの像（向かって左側の立っているのが地蔵菩薩像、右側のすわっているのがお大師さんの像）に花や果物をお供えし、駄菓子を買ってきてお参りしてくれる方々にすすめています。

▶名所・旧跡

\*番町の創設について

1647（正保4）年、足軽の3町特設：一番町（弓）、二番町（鉄砲）、三番町（槍）を設け、小頭15人、歩卒135人を3分して配し、有事に備えた。「俗ニコノ三町及角屋敷（料理方）、仲間町ヲ五町ト云ヘリ」（五島編年史）

11番 新二番町地蔵堂

- 本尊 地蔵ササ
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様（新）4月21日お接待なし



向って左がお地蔵さん、右がお大師さんです。ここの地蔵堂のお世話をなさっている女性は毎日水や線香をあげています。

新の4月21日のお大師さんの日には特別にお接待はしませんが、お堂にダンゴ、花、果物などを飾っています。この地蔵堂は2004（平成16）年に新築されました。

12番 新一番町

- 本尊 本尊地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様（新）4月21日饅頭お菓子のお接待



この地区には自称「地蔵さん組合」と呼んでいる組織があって、今7人の方が所属しています。その方々が交代で、毎日線香やロウソクをあげています。

新の4月21日のお大師さんの日には午前の当番と午後の当番に分けて担当を決め、お参りに来てくれた人たちに饅頭やお菓子を配ってお接待をしています。

**13番 大工町地蔵堂**

- 本尊 地蔵菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



以前は高齢者の女性が何人かでお堂の世話をしてくれていたようですが、今は世話をする決まった人はいないようです。その時その時、お参りをしに来た人が掃除などを行っているようです。

**14番 鍛冶屋町地蔵堂**

- 本尊 地蔵ササ
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待なし



ここの地蔵堂は3人の女性でお世話しています。そのうち2人は80才を超えています。新の4月21日のお大師さんの日には以前はお接待をしていましたが、今はお菓子を置いているだけだということです。秋は10月20日、以前は甘酒を作ってお供えをしていましたが、現在は買ってきて供えています

16番

## 唐人町地藏堂

●本尊 地藏菩薩  
●ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



以前は町内会のグループで地藏堂の世話をしていましたが、今は女性3人でしています。1人で4か月間担当しますので、3人でちょうど1年になるわけです。掃除は毎日ではなく、できる日にしています。

以前は毎月旧の21日と23日にお茶やご飯をあげていましたが、現在は毎月新の23日にお地藏さんやお大師さんにご飯をあげています。このご飯を「おはつごはん」と呼んでいます。以前はお接待もしていたそうですが、今はしていないとのこと。

## ▶名所・旧跡

\*明人堂—王直一党たちが朝夕礼拝して海上の安全を祈ったお堂で、媽祖廟（まそびょう）であったろうと思われます。中にある文字のない円筒形石碑（卵塔形）は海の守護神という。媽祖は海の守護神で女神。

\*新明人堂—1998（平成10）年、完成。建設に当たって、石材等は中国から取り寄せ、中国風の瓦葺や壁画は中国人の工人の手によりなされたものです。

\*源遠流長—本来の意味は「大河の形容、転じて歴史の長久なさまをとえる」。この場合は「福江市と黄山市（王直の出身地）とは歴史的にゆかりの深いところであり、長く友好関係を保ちあいましょう」ということ。

\*六角井戸、江川城の石垣といわれるものがある

17番

## 檜河地藏堂

●本尊 地藏尊 ●ご真言 おん かかかび さんまえい  
そわか ●行事 お大師様（新）4月21日赤飯、煮しめ等  
のお弁当 はつかさん 毎月20日



一番若い方で60代後半、一番年上が80代の女性8人で地蔵堂のお世話をしています。1人で10日間ほどお世話して次の人にまわしています。

新の4月21日のお大師さんの日にはお接待をしています。赤飯、煮しめを入れた弁当をこしらえます。昨年（2014年）は130個も作ったそうです。

また、毎月新の20日には「はつかさん」といって、地蔵堂に集まって般若心経を唱えます。以前は夜にしていたのですが、今は歳をとって足下が危ないので昼にしています。高齢者が多いのでいつまでお堂の世話ができるか心配されています。

\*「はつかさん」とは弘法大師の「お速夜」のことである。

速夜とは「命日の前夜」を指す言葉である。弘法大師は835年3月21日（旧暦）高野山で入定し、62才の生涯を終えた。前の日に供養して当日を迎えるのである。

\*「速夜」について一般的には四十九日や一周忌など定められた供養日の前日や命日の前夜を指す言葉だそうです。「速」は「およぶ」という意味で次の日に及ぶ夜という意味です。法要は都合で繰り上げることはあってもくりさげることはありません。そこで命日に実行できない時、このお速夜の考えから前日も命日同様に扱われるそうです。



**18番**

## 松山地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待なし



この地蔵堂は以前、県道沿いにあったそうですが、昭和32（1957）年竜巻が発生した時、お地蔵さんの首が折れるなどの被害もあったそうです。それで土地の所有者が壊れたお地蔵さんを見て、かわいそうに思い、土地を提供して今の場所に地蔵堂を作って安置したそうです。向って左のお地蔵さんは壊れていたのをセメントでくっつけたのがよくわかります。ここの地蔵堂は1人の女性がお世話していますが、お正月には餅を供え、新の4月21日には駄菓子などを置いているそうです。

### ▶名所・旧跡

#### \*福江で発生した竜巻

1957（昭和32）年11月10日午後9時55分ごろ、市内久木山荒神岳付近からと推定される竜巻が長さおよそ2000m、幅およそ100mの区域にわたって概ね西から東へ大荒町、松山町一帯を襲い、6人死亡、重傷8人、軽傷17人の人的被害を与えた。家屋の被害は全壊48、半壊29、一部破壊19の計96世帯であった。

19番

## 大日堂

- 本尊 金剛大日
- ご真言 おん あびらうんけん ばさら だどばん

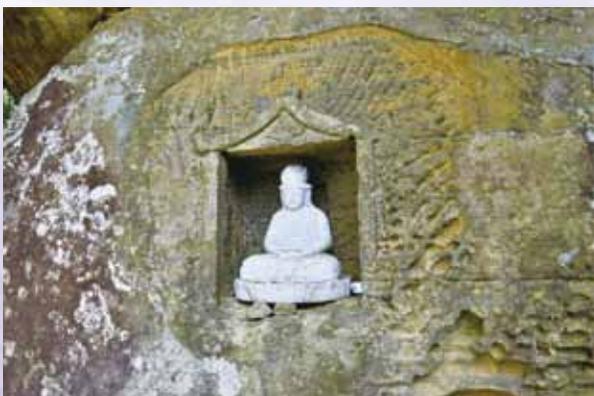
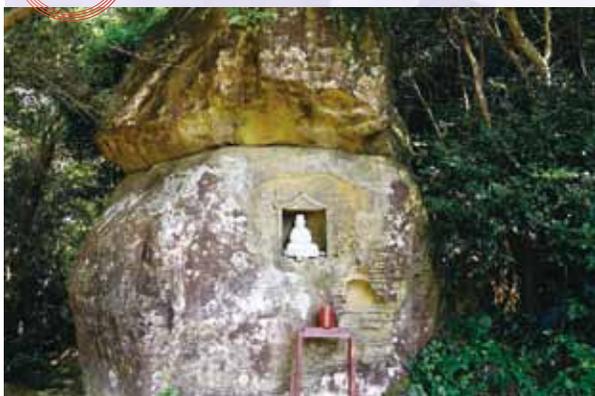


ときどき大日山に登る人たちが水を替えたりしているのではないかといいことですが、はっきりしたことはわかりません。まわりの人たちも特別に世話をしている人のことは聞いたことがないといふことです。

20番

## 大日堂

- 本尊 胎蔵大日
- ご真言 おん あびらうんけん ばさら だどばん



## ▶名所・旧跡

## \*常貞橋

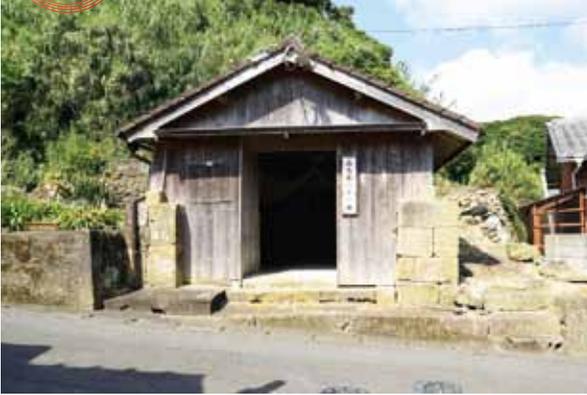
伊能忠敬が来島したおり、塩屋にとまった。塩屋という旅人宿は当時の城下町における唯一の高級旅籠屋（はたごや）で主人藤田常貞は戸楽方面の人びとの通行に便利なように自費を投じて寺院の門前小川に石橋をかけた篤志家である。今は戸楽橋と改称されたが、昭和の中ごろまでは常貞橋（じょうていばし）といわれていた。

「戸楽山下ニ石橋アリ、常貞橋ト云ヒ橋畔ニ碑アリ、・・・。」（五島編年史）

21番

## 戸楽地蔵堂

- 本尊 地蔵菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待なし



ここも1人の女性によって維持・管理されている地蔵堂です。1週間に2回ほど地蔵堂に行ってお茶やお水をあげているそうです。

以前は新の4月21日のお大師さんの日にはお接待もしていましたが、今はしていません。ただ、お堂には新しく花をかえたり、ダンゴをおそなえしたり、線香をたいたりしています。

## ▶名所・旧跡

## \*五島家の釣り場跡

「コノ御釣場ハ、五島家ノ磯遊ビノ別荘（べっしょ 別荘のこと）ニシテ・・・。礎石ノ址トシテ岩盤ニ数個ノ穴ト、釣魚ヲ入ル・直径三四尺ノ円池ナド現存ス。」（「五島編年史」）

\*田部手は処刑場だった。

「主水一味ノ徒ヲ処刑シ、頭目タル浦九郎兵衛及ソノ第二子、下有川弥七左衛門ヲ田部手浜ニ刑シ」

（五島編年史）

23番

## 向町地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日 赤飯、煮しめのお弁当をお接待



1人の女性によってお世話されている地蔵堂です。毎日お茶や水を替え、線香、ロウソクを準備していますが仏様が多いので大変なようです。

新の4月21日のお大師さんの日にはお接待をしているそうです。赤飯、煮しめの弁当を作っ

ているそうです。さらに、正月にはお餅を、彼岸には団子、赤飯を供えるということです。たまっているお札や写経は10月の大宝寺で行う護摩だきで燃やしてもらうそうです。

## 24番 水主町観音堂

●本尊 十一面観音  
●ご真言 おん まか きゃろにきゃ そわか



藩政時代は参勤交代に出発する時など、この観音堂によって航海安全を祈っていたそうです。最初から今のように家と観音堂が一つになっていたわけではありません。最初は独立した観音堂があって、堂守りとして住まいを造っていましたが、その住まいをだんだん押し広げていくうちにお堂にくっついて、一つになったということです。お堂が独立していたころは旅の僧が逗留して御籠りをしていたそうです。ここの観音堂の独自の行事としては8月17日の十一面観音さんの命日です。昔はたくさんの人たちがお参りに来てくれていたそうですが、今は随分少なくなっているそうです。

### ▶名所・旧跡

\*1734（享保19）年、観音堂境内に八大竜王を勧請し、1740（元文5）年には若宮大明神を安置している。1818（文政元年）年には雨乞い祈願をしている。

\*「(1818年) 六月十七日、水主町観音堂ニテ、八大竜王へ雨乞祈禱アリ」(五島編年史) (八大竜王とは：天竜八部衆に所属する竜族の八王。仏法を守護する。昔から雨乞いの神として祀られている。八大竜王が釈迦誕生の際、天から甘露を降らせて祝福したともいう高い神格を持つ竜神。水をつかさどる神) →八大竜王の物体はないということです。敷地の奥にある祠は明治になって作ったもので、船霊（ふなだま）様であるということです。敷地にある四角の柱は300年ぐらい前に祐天和尚が「南無阿弥陀仏」と刻んだものだそうです。

\*「水主町観音堂境内ニ八大竜王ヲ勧請建立ス」(五島編年史 享保19年 1734年)

\*「七月廿三日、福江水主町ニ若宮大明神ヲ安置ス 盛道、・・前方ノ加護モアリ、藍島ノ若宮大明神ノ勧請ヲ発意シ、神前ノ幣ヲ持ち下り、水主町観音堂ノ脇ニ、蔵元ヨリ小社ヲ造立シ、閏七月廿三日宮移、医王寺専亮相勤ム」(五島編年史元文五年 1740年) →若宮大明神は現在食堂「オルカ」の所から上に登った所にある。今は海上交通安全の神となっています。

25番

## 奥町地藏堂

- 本尊 地藏菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



以前は数名の高齢者の女性でお世話していたそうですが、その人たちも亡くなったり、他県の子供の所へ引っ越ししたりしていなくなり、今は誰も管理している人が無く、いわば放置されている状態です。

27番

## 宗念寺大師堂

- 本尊 弘法大師
- ご真言 なむ だいし へんじょう こんごう



太子堂の花を飾ったり掃除をしたりはお寺の者でしています。檀家さんなどはしていません。

31番

## 上大津地藏堂

- 本尊 地藏尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日接待あり



この地蔵堂は地域の皆さんで世話していいいます。昔は旧の23日の夜にこの地蔵堂に集まってお月様を拜んでから帰っていたそうで、これを「夜ごもり」といいました。今はみんな高齢になって夜に集まると足下があぶないので、昼に10人前後集まって座談会をしています。時間は2時間ぐらいです。般若心経などのお経は唱えません。お堂の掃除は毎日するといわけではなく、23日に集まった時にします。

このお堂にはお大師さんは祀っていませんが、新の4月21日にはお接待をします。ちょっとしたものをお参りに来た近所の人たちに差し上げるぐらいです。

### ▶名所・旧跡

\*岩川：今でも上流で野菜を、下で洗濯をしている人がいるが、この地区の人数が少なくなっているのので、この水を利用する人は以前に比べるととても少なくなった。今でもウナギがいる。しかし自分は2度食べたがやせていて食べられるものではなかった。周りをコンクリで固めたため餌が亡くなったので太ることが出来ないようだ。(近所のおじさんの話し)

\*石神神社：1507年、玉之浦納の乱のとき三郎君（圃公の子ども、後の盛定、当時3才）、大久保家次、圃公の奥方、乳母たませの4人が敵の追手から身を隠した大岩といわれる。この後、船で小値賀の浄善寺（たませの実家）を経て、奥方の実家に身を寄せた。この時、船を提供したのが泉州佐野浦（現大阪府泉佐野市）の弥惣右衛門で、彼は盛定から「山下」の姓を賜った。現在の「さのや」の祖である。



## 三尾野地蔵堂

- 本尊 地蔵ササ
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お茶とお菓子のお接待



以前はお大師さんの日に赤飯、煮しめなどで300個ばかりの弁当を作って派手に接待をしていたそうで、お参りに来る人たちの行列ができるほどだったそうです。今は世話する人が高齢者ばかりになったのでお接待は止めたそうです。しかし、今でも4月21日前には4、5人で地蔵堂をきれいに掃除し、当日には10時ぐらいからお茶菓子だけを出して接待をしています。お参りに来てくれる人数は多くないということです。

毎月の1日と15日にはお堂の掃除をしてお神酒をあげます。以前は地蔵堂の入口は開けたままにしていたのですが、酔っぱらいが泊まって畳を焼いたのでそれ以後鍵をするようにしているということです。ここの地蔵堂の世話も特定の高齢者の方にまかされており、この先の維持管理が心配されます。

## ▶名所・旧跡

### \*代官屋敷跡

屋敷跡には椎の木を含む大きな3本の木があった。この木に昔は船を繋いでいたという。この木の隣が代官屋敷だったそうで、処刑なども行っていたと聞いている。いつの台風かは分からないが台風で木が倒れて危なくなっただけで切り倒すことにした。木の根元には白蛇の神様を祀っているので八幡神社から神主に来てもらいお祓いをした。(近所の人のお話し)

## 33番 辰ノ口観音堂

- 本尊 聖観音
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待なし



新の4月21日のお大師さんの日にお接待をするということは昔からやっていません。ただ、その日には集まれる人たちが集まってお話し(座談会)をしています。また、お盆、正月には餅、花をお供えし、ロウソクをあげています。

以前は「日ごもり」といって、昼に男も女もお堂に集まって食べたり飲んだりしたものだそうです。さらに「夜ごもり」といって、旧23日に女性だけがお堂に集まって、お月様が出るのを見て帰っていたものだそうですが、今はそのような行事もなくなりました。ここ竜の口には7軒の家があって、その7軒でお堂のお世話をしていたそうですが、みんな高齢となって世話ができなくなり、今ではただ1軒の家庭に任されている状態です。将来のお堂の維持管理が心配されます。

## ▶名所・旧跡

\*竜の口城跡：竜の口城は住吉神社参道入口近くにあったとされ、石碑が立っている。岐宿から福江に移住した第9代勝公から第16代圀公までが住んだ城。玉之浦納の乱で焼失。

\*殿川：竜の口城の飲用に使用した井戸。直径2.4mの円形の井戸で、現在はコンクリで蓋をしている。



以前は崎山村長手郷で崎山・長手を合わせて1区から12区までありました。長手には木場(きば)・中・向(むかえ)の3区がありましたが、今では人も少なくなり10区(向)と11区(木場)の2つの地区になっています。地蔵堂から道が真っすぐ下の方に伸びていますが、道から崎山よりが向(むかえ)、福江よりが木場となっています。

地蔵堂のことを地元では「イゾ様」と呼んでいます。以前は「イゾサマジイサマ」(堂守りじいさん)達がいって、毎月1週間ほどお堂に集まり、豊作祈願の百万遍をしていたようですが、随分前にこの行事もなくなったそうです。このお堂のお世話は「堂守り婆さん」といって、お婆さんたちが一月に1回1週間ぐらいこのお堂に籠るそうです。時間は夕方6時ごろから8時ごろまでで、60代から90代まで6,7名はいるようです。集まってお茶菓子などを食べながら話などをしています。このお堂には毎日あかり(ロウソク)が灯されています。1日も欠かすことはないそうです。灯りは札が廻って来るので地区の人がまわりばんこでつけています。

旧の3月21日はお大師さんの日ですが、特別な接待はありません。おばあさんたちが集まって普段するようにご詠歌をあげたりするだけだそうです。この地蔵堂は50年ほど前、県道を作るということで、そっくりそのまま今の位置に移動したそうです。その際、1間ほど小さくなりました。

長手の厄払いは男性41才、女性33才で特に盛大に行われていました、が15年ほど前に止まってしまい、今は行われていないということです。33才の女性の留めそでは親が作ってくれていました。嫁に行った人も、嫁に来た人も厄払いには出席していたそうです。

### ▶名所・旧跡

・堂内の石碑について一長手開拓の祖川村九郎左衛門夫婦の戒名である。石碑には次のように記されている。なお二人のお墓は長手の墓地にあります。宝永七年=1710年 庚寅(かのえとら)

姫の戒名:「朝山宗露信女 宝永七庚寅正月十六日 九十七歳」

九郎左衛門の戒名:「一無単心信士 宝永七年六月七日 九十六歳」

40番

## 堤地蔵堂

●本尊 地蔵菩薩  
●ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



地蔵堂のお世話をする人は特に決まっていないようです。お堂が散らかっていることに気づいたときに近所の方々が掃除をしているようだということです。ここも維持管理が心配される地蔵堂の1つです。

41番

## 増田地蔵堂

●本尊 地蔵尊 ●ご真言 おん かかかび さんまえい そわか  
●行事 お大師様(新)4月21日お菓子のお接待 はつかさん 毎月20日



2人1組で地区の老人会の女性たちが掃除当番などのお世話をしています。掃除当番は2人するのが原則ですが、高齢者の場合は3人1組である場合もあります。増田地区では60才になると老人会に入らせられて、女性には掃除当番が回って来ます。地蔵さんなどにかけているエプロンは汚くなったら取り換えますが、なかには病弱な人とか悩みのある人が取り換える場合もあるということです。

新の4月21日、お大師さんの日には地区のお年寄りたちがお堂に集まって来ます。昔はごちそうを持ち寄って食べたものだそうですが、今は弁当屋さんから弁当を取って朝から夕方まで話し込んでいるそうです。他所の地区からはお参りに来るときもあれば来ない時もあります。お参りに来ればお茶菓子を出して、大切に对应しています。また毎月新の20日には「はつかさん」をしています。この地区では高齢者がいる家ではたいていお大師さんのお像を持っているそうです。

## ▶名所・旧跡

### \*滑り台について

増田川の川べりに塩釜を据え、その釜を中心にわずか8戸の家族が農漁業のかたわら製塩業を営んでいたのが、古い増田の集落の姿である。1624（寛永4）年、藩主盛利のキリシタン迫害に耐えかねて奥浦の船大工たちのうち12家族がこの増田に移住して来た。当時の増田の港は水深もかなりあり、造船業に適していたという。その船大工たちが造船業を行なうために築いた船台の跡が「滑り台」と地区の人たちが呼んでいる傾斜した石畳である。（「君が瀬どん」）

**42番 高田地蔵堂**

●本尊 地藏尊 ●ご真言 おん かかかび さんまえい そわか ●行事 はつかさん 毎月(旧)20日にじゅうよっかさん 毎月(旧)24日



この地区では若い女性でも一家を持ったらお堂の掃除当番の組に入ってもらい、地区全体で当番を決めて交代しながらお堂のお世話をしています。旧の20日は「はつかさん」、24日は「にじゅうよっかさん」といって、地区の人たちがお堂に集まって「置き鐘」を叩いて、ご飯をお供えしていたものですが、今は当番の人がお堂の掃除をしてお水を替え、ご飯をお供えするだけでみんなが集まるということはないそうです。

**44番 籠淵毘沙門堂**

●本尊 毘沙門天 ●ご真言 おん べいしらまんだや そわか ●行事 おとや(新)9月1日、2日



以前は一人の女性が長い間お堂のお世話をしてくれていましたが、高齢となって現在は養護施設に入っていますので、今は地区の役員がお堂のお世話をしています。役員は2人

で2年交代、1人が1年間受け持つと後1人が残りの1年間を担当するようになっていきます。役員がお盆と正月にはお堂の飾りつけに行きます。町内の人で毎月お参りに行っている人もいます。

4月21日のお大師さんの日には特別なことはしていません。新の9月1日と2日は「おとや」（お通夜と書いて「おとや」という）の祭りだそうです。昔は地区のみんながお堂に集まってにぎやかだったそうです。9月1日は役員が集まりますが、2日は昼に明星院の住職に来てもらって拜んでもらいます。

この地区は「上の村（うえんむら）」と「下の村（したんむら）」に分れていて、それぞれの村で綱を作り、2本の綱を1つにして、正月3日には綱引きをします。終わってから「上の村」が作った綱は毘沙門堂に、「下の村」が作った綱はヤマズミの神の神社に納めます。綱引きは公民館の前の道で行われるということです。山の神の神社のお祭りは7年祭といって7年ごとに行われます。

### ▶名所・旧跡

\*毘沙門天—日本では一般に革製の甲冑（かっちゅう）を身に着けた武将風の姿で表される。宝棒（仏敵を打ちすえる護法の棍棒）と宝塔（円筒形の塔身に平面方形の屋根を持つ—重塔）を持つ。無病息災、財福の神（福の神）。七福神の1つ

\*大山祇神社：オオヤマツミの「ツ」は「の」、「ミ」は神霊の意なので、オオヤマツミは「大いなる山の神」という意味になる。また別名を和多志大神といい、「わた」は「海」の古語なので海の神を表す。すなわち山、海の両方を司（ちかさど）る神ということになる。ニギノミコトはオオヤマツミの娘であるコノハナサクヤヒメと結婚する。このときオオヤマツミは姉のイワナガヒメと一緒に送った。イワナガヒメは容姿が醜いので送り返された。その時オオヤマツミが「イワナガヒメを添えたのは天孫が永遠でいられるようにと誓約を立てたからで、イワナガヒメを送り返したことで天孫の寿命は短くなるだろう」と言ったといわれる。ニギノミコトとコノハナサクヤヒメの子孫から第一代の天皇である神武天皇が生まれたということになっている。

45番

## 小田地蔵堂

●本尊 地蔵尊 ●ご真言 おん かかかび さんまえい そわか ●行事 おやと 9月15日 お地蔵の日 9月23日 施餓鬼 8月11日



地蔵堂のお世話をするために「じぞ帳」というのがあって、これに名前が書かれており、この名前の順番にまわすようになっていきます。順番が廻って来ると、朝ご飯をあげたら

夕方下げて、次にまわす。このじぞ帳はずっと昔から小田に住んできた者だけに、それも本家を継いだもののみまわすそうです。本家しかまわらないので、地区の本家が多かった時代は2,3か月に1回廻って来ていたのに現在は本家も少なくなり、月に1,2回廻って来るようになってきているということです。

新の4月21日には数年前まではお接待もしていたそうです、が担当する人たちが亡くなったり高齢になったりしたので今はしていません。でも、その日には付近の人たちがお堂に集まってお供えをしたり、お話しをしたりしているようです。そして、お参りに来てくれた人たちには買ってきたお菓子を袋に詰めてあげています。

9月15日は「おとや」、9月23日は「お地藏の日」といって、10数名がもち米の団子を作って集まり、それをお供えしてお話しをしています。向って右側の仏様3体（黒色のほとけ）は盛興寺から持ってきたといわれており、8月11日には清浄寺から住職に来てもらい、施餓鬼をおこなうということです。

### ▶名所・旧跡

\* 盛興寺（じょうこうじ）跡—不許薫酒入山門（くんしゅさんもんにいるをゆるさず）の門柱がある。

「盛興寺ハ先ニ仁安三年（1168）小値賀ニ建立シテ平盛興ノ菩提ヲ弔ヒ、ソノ名ニ因ニテ寺号トナシタルモノナリキ。・・・即チ、先ニ小値賀ニ於テ潰シタルヲ、故アリテ、此ノ地ニ再興移転セラレタリト見ユ。・・・今、寺址ニハ井戸存スルノミ、・・・」（「五島編年史」寛永16 1639年）

（宝暦5年 1755年の社領：盛興寺—43石2斗4升4合 観音寺—49石 ）

\* 「不許薫酒入山門」について

「福江市史」には上記のように記されているが、正確には「不許葷酒入山門」である。葷酒（くんしゅ）とはなまぐさい野菜（にんにく・にら・ねぎなど）（また、肉）と酒のこと。「葷酒山門に入るを許さず」の意味は「なまぐさいものと酒は、仏道修行の妨げとなるので、寺院の中に持ち込むことを許さない」ということで、禅寺などで、寺門の側の戒壇石に刻んである標語である。

## 46番 六方地藏堂

- 本尊 地藏尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



ここの地藏堂も特定の高齢者の女性によって維持管理されています。地藏堂の世話を始めて40年になるということです。普段は月に数回水を替えたり、線香、ロウソクを点てたりしています。そして正月とお盆には新しいエプロンに替えます。今月（12月）も27日ごろに着替えさせて、お花も取り換えるつもりだそうです。地藏堂のお世話はお地藏さんのためというより自分のためにしているということです。誰かがしないとお地藏さんものどが渴くので女性が水を供えています。

お大師さんの日の4月21日は特に何もませんが、お参りに来てくれる人たちを嫌な気持ちにさせないように朝早く掃除をしてお地藏さんにごちそうをあげています。この女性の娘さん（60代）が跡をついで地藏堂の世話をしてくれるということで、女性は安心してしています。

この女性の方が四国88か所巡りのとき、えらい和尚さんから聞いたという次のような話をしてくれました。「右手は自分の生まれた在所の手、左手は結婚先の手、両手を合わせると両方の先祖様が守ってくれる。両手を合わせるとき掌全体をピタッと合わせるのは良くない。両手の指をあわせて、掌は少し丸めてふくらみを持たせて包み込むようにして拝む。ふくらみの所に両家の幸せが入る。ピタッと閉じたら幸せが入ることが出来ないで幸せが逃げる。」

#### ▶名所・旧跡

\*六方は大宝年間（701～704）に本山村の「鷹ノ巣」から住民が移住して来てできた集落と言われている。六方の「方」は「潟」でかつては入江が深く入り込んでいたと思われる。

\*後期キリシタンの上陸地—1798（寛政10）年1月14日（旧1797年11月28日）外海地方（三重・黒崎）の潜伏キリシタン108名が上陸→平蔵36人、黒蔵30人、楠原42人の3地区へ地方百姓として入植した。

\*上陸した108名の潜伏キリシタンたちは外海から持参したキリシタンの聖具などをこの堂の床下に埋めて隠して行ったという。（「昭和末期の長崎天主堂巡礼」より）

\*1571年六方に教会ができた。その場所は南河原口にあったと言われている。

\*平家塚—源平合戦に敗れた平家の落人が六方に上陸し、地区の人たちに自分たちの上陸を秘密にしてくれるように頼んだが、あるいたずら者が単なる船を源氏の追手の船だと告げたためにこの地で自刃したという。

47番

## 平蔵観音堂

- 本尊 観音菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



お参りできるときにお参りするぐらいで、その時はお茶や線香を持ってお参りをすることです。4月21日は特別なお接待はなく、お茶菓子をもち寄って友達とお話をするぐらいだそうです。

### ▶名所・旧跡

\*浦頭教会墓地—大きな十字架の側に中村長八神父の墓があります。

\*中村長八神父—1865（慶応元年）年生まれ、1897（明治30）年神父になる（32才）、奄美大島で25年間司牧、1923（大正12）年ブラジルへ（58才）、1940（昭和15）年に亡くなるまで17年間司牧の後帰天（75才）、現在福者への運動がおきている。長八神父の実家跡には奄美大島から持って来て植樹した大きなマキの木がある。

48番

## 檜ノ浦観音堂

- 本尊 聖観音
- ご真言 おん ありりきゃ そわか
- 行事 お大師様(旧)3月21日接待なし



町内の皆さんで観音堂のお世話をしています。近所の人3人で1組を作り、それぞれの仏様の命日（観音様は旧16日、お大師さんは旧21日、不動明王は旧27日）の1日前に掃除をします。命日にお参りする人がいるからです。だから、1カ月に3日掃除をすることになります。1カ月に交代します。

旧3月21日のお大師さんの日にはお接待としては特別なことはしませんが、地区の人たちがそれぞれお菓子を持って来て供えるし、ごちそう（煮しめなど）を作って持ち寄った

のを食べます。その時、他地区などからお参りに来てくれた人がいればおすそ分けをします。旧3月21日は般若心経を唱えた後、「百万遍」といってみんなで輪になって大数珠をナンマイダ、ナンマイダと言いながら100回まわす行事をします。12～13人ぐらいが参加しています。100回を間違わないように、ツバキの葉を50枚取ってきて最初の50回は入れ物からツバキの葉を外に出し、次の50回はツバキの葉を入れ物に入れてあります。これは午前10時ごろから始まります。

このお堂の観音様は無事に子供を産む安産の神でもあります。妊婦さんが無事出産を願ってお参りに福江の方から来る人もいるということです。以前は、晒しを供えているので、自分が持ってきた晒しを仏前に残し、仏前に供えている晒しを持って帰ったものですが、今は自分が持ってきた晒しをそのまま持って帰る人もいます。

### ▶名所・旧跡

\* 檜ノ浦は村（福江方面からの入口からアコウの木ぐらいまでの地区）、中（アコウの木あたりから「むかえ」まで）、向（むかえ 天神神社に行くまでの固まった地区）の3地区に分かれている。

\* アコウ樹一県内最大のアコウで九州でも第1級に入るそうです。大きさは根回り15m、樹高11m。1952（昭和27）年県の天然記念物に指定されている。アコウは別名「絞め殺しの木」「絞殺木」ともいわれています。

\* 金比羅神社と恵比須神社が並んで立っている。この神社までのセメントの階段が90段、さらに石の階段を86段登ると以前の金比羅神社に着く。上の金比羅神社を下に移し、「むかえ」地区にあった恵比須神社をここに移転したという。



以前は決まった誰かが地蔵堂のお世話をするというのではなく、近所の人たちが気づいたときに掃除などもしていたそうですが、今では高齢者が多くなりお世話をしてくれる人も少なくなったということです。お茶は茶碗に澁がついてきたなくなるので水をお供えしています。誰かが線香やロウソクを持って来てくれます。

以前はお大師さんの日には「お寺」（崎地区にあるお堂のこと。地元ではお寺さんと呼んでいる）に集まってみんなでお接待をしていたそうですが、今はしていないということです。

## ▶名所・旧跡

\*戸岐大橋—1979（昭和54）年完成、長さ213m、幅6.5m。

\*鳩丸は半泊や観音平の生徒たちを観音平の下の方の波止場から乗せていた。

\*鳩丸は20円だったと思う。ワタローと呼んで櫓漕ぎで渡していたころもあった。

\*戸岐は花、浦、崎の3地区に分かれている。

\*六角井戸—地上の枠組みだけが六角形で中は普通の井戸のように丸い形をしている。

## 51番 戸岐ノ首薬師堂

- 本尊 薬師如来
- ご真言 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
- 行事 お大師様(旧)3月21日お接待なし



お堂は地元では「地蔵さん」と呼んでいます。現在、戸岐の首にはお堂に関係のある家は3軒しかありません。その3軒でお堂のお世話をしています。1軒の家で1年間受け持っています。

旧3月21日のお大師さんの日には特別なことはしていませんが、花などをお供えして墓掃除もしているそうです。

正月、盆、3月の節句、いの日どん（9月20日?）には地蔵堂にお供えをしています。正月のこの日（1月4日）も餅、みかん、お水をお供えしていました。いの日どんというのは秋の彼岸の中日か上がりの日で、その日は栄林寺から和尚さんが来てくれて、一軒一軒廻ってお経をあげてくれます。お堂には大きな長い数珠がありますが、この地区の人数が多い時は女性たちが集まって百万遍をしていたそうです。

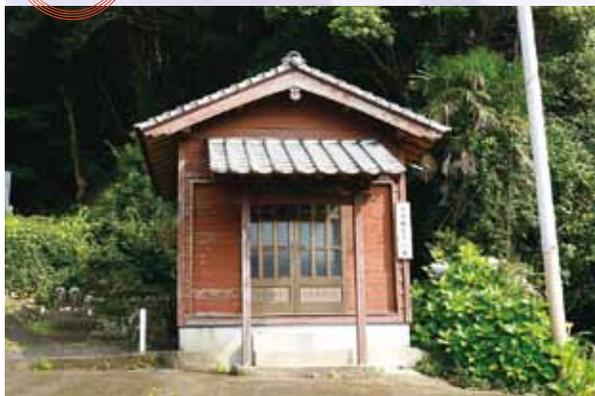
## ▶名所・旧跡

\*入口・出口の地蔵—嵯峨瀬に近い方の地蔵が「入口地蔵」、唐船の浦に近い方が「出口地蔵」。災厄や疫病が地区内に侵入するのを防ぐために設けたものである。

\*保食（うけもち）神社—五穀（米・麦・粟・稗・豆）豊穰の神を祭っている

\*保食神（うけもちのかみ）—この神の死体の頭から牛馬、額から粟、眉から蚕、目から稗、腹から稲、陰部から麦・大豆・小豆が生まれた。これが種のもととなったという神話。

- 本尊 観世音菩薩
- ご真言 おん あろりきゃ そわか
- 行事 お大師様(旧)3月21日お接待なし



地区の全員で掃除などをするようにしていますが、お水やお茶をあげたり、正月のお餅をお供えする女性は決まっているようです。

旧3月21日には年に1回地区の全員が地藏堂に集まって、お経をあげたり、買って来たお菓子を食ったりして過ごします。この観音堂は平成15（2001年）年に建設されました。現在（2016年1月）、唐船の浦も住んでいる家は5軒で人数は8人になりました。

\*現在の地藏堂は平成15年建設

#### ▶名所・旧跡

\*昔から中国（唐や明）の船の出入りが多かったところから名付けられた地名という。王直も最初はこの地を根拠地にしたという。しかし、1635年、幕府の「(中国船の長崎以外) 他港ニ入ルヲ禁ズ」の命令により唐船の浦の自由貿易港としての役割は終えた。

\*「・・猪鹿ナド農作物ヲ害スルニヨリ、唐船浦ニ犬三匹飼フコトヲ許シ、鹿ヲ捕リタルトキハ皮半分ハ之ヲ蔵元ニ納メシム」(五島編年史 1682年)

\*大曾根神社一祭神は三体の海の守護神

表筒男神（うわづつおのかみ）一海上、航海、船などの守護

中筒男神（なかづつおのかみ）一海中、魚、漁などの守護

底筒男神（そこづつおのかみ）一海底、海藻、貝類他底物の守護

テ、一月十日、再び鬼宿ヲ岐宿ニ復ス」(五島編年史)

54番

## 金福寺観音堂

- 本尊 観世音菩薩
- ご真言 おん ありりきゃ そわか



お大師さんの日ということで特別に何もしていませんが、観音堂にはお大師さんの像も祀っているので、観音堂はお参りに来る人に開放しています。

55番

## 白石観音堂

- 本尊 観世音菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(旧)3月21日赤飯、煮しめのお接待



以前は地区全体でグループを組んで地蔵堂のお世話をしていたそうですが、が高齢になって亡くなったり、グループホームに入ったりして行われなくなり、今は特定の高齢の女性がお世話をしています。昔は旧正月、5月、9月の23日には「サンヤさん」といって月が出るまでお堂にこもっていたそうです。昭和55年ごろまではしていたようですが、今はそういう行事もなくなり、お大師さんの接待を旧の3月21日にするだけになりました。お大師さんの日にはひな壇を作ってきれいな布をはり、赤飯を蒸してお参りする人を迎えます。福江からもたくさんの方がお参りに来てくれるそうで、赤飯、煮しめを出してお接待をしてくれます。お接待の料理は自分の家で作ってお堂に運んできます。この女性は昔おばあちゃん(姑さん)から譲られてお堂の世話をするようになって60年になるそうです。去年までは自分一人でお接待をしていましたが、来年(2016年)は姪(70才以上)と二人で簡単なものになりたいと考えています。お接待については各家庭でお接待をする家がこの地区で10軒ぐらいあるということです。

お堂にある3面仏の仏様は惣津からこの女性の父親(明治20年生まれ)が持ってきたもの

だそうです。以前はお堂にはお大師さんの像は一つしかありませんでしたが、各家庭で祀られていたお大師さんの像を持って来るので沢山になりました。

### ▶名所・旧跡

\*三面仏一ある年の夏、惣津のある人（カトリック）が山水で屋敷をこわされたので、石垣を築きなおして家を建てた。ところが主人が病気になったり、家族がけがをしたり、船の碇が切れたり、裏山が崩れたりと不思議なことが次々に起こった。調べてもらったところ石垣の中に三面仏を積んでいることがわかり、早速ここの地蔵堂に移した。その後、惣津の家には不幸が起きなかったということである。

\*加護川（かんごんがわ）－「神様の守護される川」の意。どこの水よりも長期間腐らず、日照りが続いても水量が変わらなかった。今はコンクリで固められていて水はほとんど流れていない。地元の人が「水は途中で地中にしみこんでいるようだ」と話していた。

\*塩釜神社一遣唐使の塩を製造した所といわれている。

\*お堂の中の掲示物では「白石地蔵堂」となっている。

\*ともづな石がある観音堂について→このお堂が「白石観音堂」となっている。



以前は月の集まりやお大師さんの接待も毎年やっていたそうです。当時は、お世話をしてくれる人たちが5~6人いたそうですが、その人たちも高齢になり、1人止め2人止めして今はお堂では何もしていません。普段も使用していないということです。

### ▶名所・旧跡

\*シロウオとりについて－2月10日から25日ぐらいの15日間ほどが漁期。2人から3人でやっている。潮が満ちてくるときに捕る。中須でもやっている。ひどく寒い朝は獲れない。踊り食いというものもあるが自分は吸い物が一番良い。

\*僧とある女性の墓－今から約200年前、ある旅僧が女性を連れて逃げようとして坊主が浦の芦の中に隠れていたが発見され二人とも処刑された。その二人の墓。この伝説に感銘を受けた富江のある婦人が頭に鳳（おとり）をいただく観音菩薩を建立（昭和56年）して「千鳥観音」と命名し、祀っている。

大日堂－大日如来を祀っているお堂が山の中にある

57番

## 大川原地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待あり

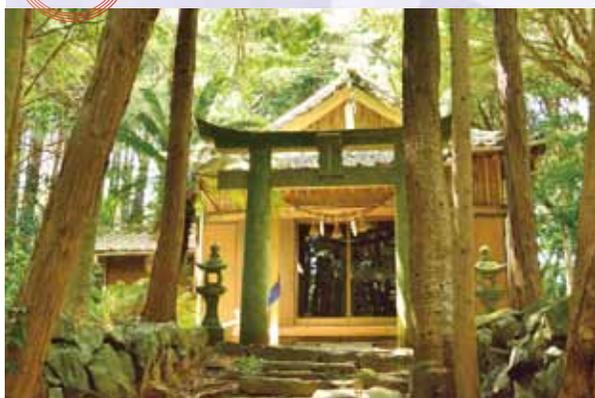


この地区の女性は65才になると地蔵堂の担当になるように決められているようです。従って、地蔵堂の管理は女性にまかされており、毎月20日の命日（弘法大師）に合わせて地蔵堂の掃除をしています。この地区は1班から4班に分かれていて、1,2班が今月担当したら次の月は3,4班が担当するというようになっていきますので、2カ月に一度回ってきます。4月21日のお接待は1年ごとに交代しながら実施しています。昔は旧暦でしていたようですが、今は新暦でしているということです。班でごちそうを作って集まります。赤飯をいっぱい炊いて煮しめを作って、それを弁当にしてお参りに来た人たちに配ります。地区の人もお参りに来ますがよそからの人も多いということです。ツツジの花を門松みたいにしてお地蔵堂の入口に供えるそうです。

59番

## 濱ノ畔里行者堂

- 本尊 役の行者
- ご真言 なむ じんべん だいぼーさー
- 行事 お大師様(旧)3月21日お接待あり



昔は行者さんを信仰する人たちが集まってお堂の世話をしていたそうですが、その人たちも亡くなって受け継ぐ人がいなくなったということです。この里地区は里1、里2、里3の3地区に分かれていてそれぞれ総代さんがいます。地区全体の世話をする地区長が1人います。現在はこの方たち4人の役員が毎月旧の7日か8日にお堂にお参りして、水、お花、柴替え、掃除などを行っています。

旧の3月21日にはお堂でお接待をしています。役員さんの奥さんたちが集まってお餅や煮しめ、赤飯などを作ってお参りに来てくれた人に接待をしています。お堂でお大師さんをツツジの花やいろいろな花で飾っています。この地区では個人の家でもお接待をしている所があり、お参りに来てくれた子供にはお菓子を配ったりしていますが、大人たちには煮しめや赤飯を出しておもてなしをしています。しかし、近年は個人の家で接待をする人は少なくなっています。

この行者堂では女性は板張りの間までで、行者さんを祀っている上の方には上がってはならないことになっているそうです。だから上の方の掃除も男性でなければならないし、柴を替えるのも男性がするという事です。



60番

## 浜ノ畔釜行者堂

- 本尊 役行者
- ご真言 なむ じんぺん だいぼーさー
- 行事 お大師様(旧)3月21日お茶とお菓子でお接待



この行者堂は80代の高齢の男性数名で維持されているようです。以前はこの人達の父親たちが廻りばんこで毎月7日に御籠りをして五体満足に生活できることなどを感謝していたそうです。何十年も続けていたそうですが、その方々が亡くなった後、後継者がいなくなったので今の方々がお堂の世話をしているということです。「自分は神様のお蔭でこんなに元気に生活できる」と感謝しつつお堂の世話をしているそうです。

旧の3月21日には朝8時から夕方6時までお堂にこもって、お茶菓子を出して対応しています。十数年前からしているそうです。さまざまな悩みを抱えた人もお参りに来てくれますが、おまいりに来てくれた人には元気で過ごすことが出来るように、「直方体の箱」で肩や頭や背中などをなでてやっています。

この行者堂では20年間ほど続けられていることがあります。それは、80才以上の女性5人で毎月新の7日(行者さんの命日)、朝9時に行者堂にお参りすることです。お参りして、行者経、般若心経などのお経を30分ほど唱えた後、お茶を飲んで帰って来るそうです。

### ▶名所・旧跡

\*直方体の箱について一長さ1m、縦・横15cm位の箱で、その中に仏さまの絵を描いたものか、お経を書いたものか不明であるが、巻物にした古いものが2,3入っている。その箱で、「いつまでも健康であるように」とか「長生きできますように」とか言いながら、頭・膝・肩・背中・腹を3回ずつ叩いてくれる。「なでてやる」というより「少し叩く」と言った表現がよい。



旧の3月21日、いわゆるお大師さんの日にはお大師さんの像を祀っている人が各家庭でお接待をしています。特に柏1地区（灯台に近い地区）ではお接待をしている家庭が多いそうです。手打ちうどん、煮物、赤飯、ばらずし、さしみ、てんぷらなどを作ってお接待をしています。地区の人たちも参って来てくれますが、三井楽や福江方面からお参りに来てくれます。

今でも毎朝8時ごろ観音堂を世話してくれる女性たちが2人、3人と連れ立ってお堂に集まり般若心経を唱えたりするそうです。だいたい5・6人ぐらいの女性たちが集まるようで、だから掃除やお水替えは毎日できるというわけです。さらに、旧の7日と18日には寄れる人たちがお堂に寄ってお経をあげています。5・6人ぐらいになります。また年末年始の行事として旧の12月18日（年の最後）と旧の1月18日（年の最初）には10数名がお堂に集まって百万遍をするそうですが、この地区では百万遍のことを「ひゃんまめ」と呼んでいるそうです。

### ▶名所・旧跡

- \*しみん河—昔はあったが道路を作る時に埋めてしまって今はない。
- \*カノン場—金比羅神社のある所から近藤さんの家付近まで含めてこの地区全体を指す。
- \*辞本涯の碑—弘法大師空海の遺徳を顕彰するため地元出身の有志が1986（昭和61）年に建立した。
- \*ふぜん河—直径3mの井戸。以前は井戸から数mの所が渚であった。今でもウナギがいるという。遣唐使もこの井戸の水を利用していた。
- \*カグラサン（ロクロ場）—江戸時代、ヨコオグンという捕鯨団があり、捕獲したクジラの陸揚げ、解体に使用したロクロの跡。

62番

## 丑ノ浦阿弥陀堂

- 本尊 阿弥陀如来
- ご真言 おん あみりた ていせい から うん



丑の浦全体で女性が2人1組になって掃除などのお世話をしています。2人で組んで世話をしている女性もいれば、1人でお堂の世話をしている人もいます。1人で1か月担当しますので、2人で組んでいるとその組は2か月担当することになります。現在6組あり、年に1から2回当番が回って来ます。月1回旧暦の17日に掃除をしています。その時は7体あるお像全てにお茶、お水、ご飯などをお供えし、ろうソクが1本燃えきるまで留守番をしています。その間、般若心経を唱えたりしているそうです。新の4月21日のお接待はお堂ではありませんし、お参りに来る人もほとんどいないということです。お接待をする家庭は各自家でお大師さんの像を祭って各家庭でしています。自分の家にお大師さんを祀っている家も以前は何10軒もあったそうですが、いまでは3軒になっているということです。

## ▶名所・旧跡

\*尼御前の墓一人品賤しからぬある婦人が中国に旅立って戻ってこない夫をたずねてここまでやって来た。やがて生活物資に困ったその夫人は家来を大宰府に使いさせて食料を求めさせ、磯もので飢えに耐えつつ苦しい生活をしていた。ある日家来の船が帰って来るのを見て安心したがその船は突然の荒天で転覆し、婦人の望みを絶った。その婦人はやがて尼になり亡くなったが地元の人が尼御前と呼び、祠を作って祀るようになった。旧暦10日が命日。

63番

## 貝津阿弥陀堂

- 本尊 阿弥陀如来
- ご真言 おん あみりた ていせい から うん
- 行事 お大師様(旧)3月21日お接待あり



地区全体の婦人部で阿弥陀堂の当番をしています。以前は月4回阿弥陀堂の当番をしていましたが、婦人部の人も少なくなったので去年頃から月2回にしています。旧の7日と23日です。当番の時はお茶、お水を替えたり、掃除をしたり、自分の家でご飯を炊いて持って行ってお供えをしたりしますが、仏様も多いからあげるのも大変です。当番の時は3,4時間かかり、般若心経を唱えたりします。女性は若くても、仕事をしていてもこの郷にはいってくれば当番になるそうで、仕事があつて7日、23日に出来ない時は前日にしているということです。

旧の3月21日のお大師さんの時は前日に壇を作ってお大師さんの像を花や果物で飾り、煮しめや餅も作ります。餅は米の粉で餡（あん）を入れた餅と小麦粉で作る餅（ふくれ餅のこと）の2種類作ります。以前は貝津郷を1,2,3班に分けて各班で担当していましたが、2,3年前から地区全体の人も少なくなったので、みんなでお接待に取りかかるようにしているということです。21日の当日は朝8時頃から始まりますが、地区の人も他所からもお参りに来てくれてとてもにぎやかです。

### ▶名所・旧跡

\*貝津神社—1月2日ここで「獅子起こしの儀」があり、翌日氏子の家々を廻って男獅子、女獅子、猿田彦の三者が獅子舞を披露する。

\*「ひめごぜん」の墓—ここは姫崎と呼ばれ、夫納の後を追いかけて来た納の妻が自害した場所といわれている。墓は納の妻の墓といわれる。

\*シイガー猪防止の猪垣で、貝津神社を起点とし桐の木山にかけて約4km。1804年完成。



## 丹奈観音堂

- 本尊 観世音菩薩
- ご真言 おん あろりきゃ そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待なし



観音堂は階段の上の方にあるので高齢者が多いし、足が痛いなどで普段お堂まで登る人がいません。この地区は若い人は少なく、地区全体で世話しているわけではなく、当番制でもないの、関心のある人たちが月1回、新の17日に2,3人で上がり、花の水を替えたり、掃除をしたりした後、般若心経を唱えてお茶を飲み下がって来るそうです。正月には全部の仏さまに町内会長さんが餅をお供えします。

4月21日のお大師さんの日にはお大師さんの像が2体あるので紅白の餅を合わせて2個ずつお供えし、その上にミカンを載せるだけだそうです。

## ▶名所・旧跡

- \*玉之浦納は嵯峨島で部下14名と共に自刃して亡くなったが納公と14名の首級は丹奈の浜にさらされたという。納公の墓は玉之浦深浦の墓地にあり、西方寺には位牌がある。
- \*鹿が増えて夜は町中までやって来る。



正面に「薬師堂」が、側に「観音堂」がある。薬師堂に「1月8日の初薬師、千巻心経が地区の諸事上で接待できなくなったので本年（2016年）を持って終了することになった」という張り紙があった。

千巻心経というのは新の1月8日に寺脇の通福寺からお坊さんに来てもらって千巻心経を読んでもらう行事です。以前はこの日には福江、三井楽、川原からマイクロバスを仕立ててお参りに来てくれていたそうです。お坊さんが読んでしまってから（時間がかなりかかっていた）お坊さんを含め、お参りに来てくれた人たちみんなにお接待をしていました。しかし、お接待をする人も亡くなったり、ホームに入ったりしていなくなり、また、お参りに来る人もいなくなったので今年から取りやめたそうです。

旧の3月21日、お大師さんの日には三井楽、福江、川原からマイクロバスを仕立ててお参りに来てくれていたのでお接待をしていたということですが、しかし、今はお参りに来る人もいなくなり、お接待をする人も年をとったり、亡くなったりでお接待もできなくなったということです。掃除は地区全体でしています。

観音堂は以前は前方の山の中にあっただそうですが、登りが急で年をとったら観音堂に行くことができないので10年ぐらい前に地区に頼んで今の場所（薬師堂の隣）に移してもらったそうです。薬師堂の中にある弘法大師の像も別の所にあっただのを10年ほど前に薬師堂に移したということです。

## ▶名所・旧跡

- \*千巻心経とは一般若心経を千回唱える修行のこと。参加者の人数で割った数を各々が読誦すること

67番

## 井出関地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様 お接待なし



以前は旧の3月21日にお接待をしていましたが2年ぐらい前に止めたそうです。お接待をしていた当時は特定の一人の女性でお接待をしていたということです。煮しめ、赤飯、団子などのご馳走を作って、赤飯や団子を入れた物をお参りに来てくれた人に配っていたそうです。前の日から準備にかかり、カンコロとヨモギと餅とあんこで団子を作っていたそうですが、それだけで300～400個は作っていたと思うということです。そして、福江方面からもたくさんの方がお参りに来てくれて、お接待は朝8時ごろから夕方6時ごろまでしていたそうです。今は女性専用の部屋にお大師さんを飾って、旧の3月21日に内輪だけのお接待をしています。友達10名から20名ほどが来てくれるそうです。地蔵堂には毎月旧の24日に行って花やお水を替えています、がお参りするだけでお経をあげるようなことはしません。

68番

## 松山地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



この地区にお大師さんを祀っていた家が4軒あって、その人たちが世話をしていたそうです。今はその人たちも亡くなってしまったり、ホームに入ったりしてお堂の世話をする人は誰もいないということです。昔からお大師さんの日にも何もしていません。地蔵堂は以前は違う場所にあったそうですが、道路拡張工事の時、今の場所に地蔵堂を移したそうです。

69番

## 山内坂上地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかび さんまえい そわか
- 行事 お大師様 お接待なし



以前は旧の3月21日に地蔵堂でお接待をしていたようですが、今はお接待をしていた人たちが高齢になったり、亡くなったりで地蔵堂でのお接待はしていないということです。ただしこの日にはお堂にお供え物や花をあげるそうです。地蔵堂は普段は使っていません。しかし、この地区では個人の家でお大師さんの像を飾り、煮しめ、団子、赤飯などを作ってお接待をしている家庭もあります。福江、崎山、三井楽、川原方面などからもおまいりにきてくれるそうです。

この地区では坂の上の道から上が春の彼岸の担当、道から下が秋の彼岸の担当と決まっています、彼岸の中日のその日には婦人たちがぼたもちやお茶菓子、お茶を持って地蔵堂に行くそうです。だから、地蔵堂には地区の人は年に2回集まって拜んでいます。

70番

## 山内高田地蔵堂

- 本尊 地蔵尊
- ご真言 おん かかび さんまえい そわか
- 行事 イゾさんの日(旧)3月21日お接待あり



高田（こうだ）地区では地蔵堂の世話は当番になった家が1年間担当します。担当の家の順番は決まっています、旧の3月21日の「イゾさんの日」には当番に当たっている家が地蔵堂を粗末に扱ってはいけないということでそれなりのお供えをしています。例えば、おじいさんが当番に当たった場合はいろいろできないので果物やお餅を供える、お接待ができる家が当番にあたった年は煮しめや赤飯、団子、漬物、お茶などで接待をするという具合です。地区の人たちもお参りに来てくれるし、福江からも来てくれるそうです。

子供たちが10円を持ってお参りに来るので駄菓子をやりますが、これを「10円参り」と呼んでいます。普段はお堂では特別に何もませんが、おばあさんたちの中にはお堂に参ってお経を唱えている人もいます。近所のおばあさんたちで、お堂によく参ってくれる人たちが掃除をしてくれるということです。

71  
番

## 山内柿ノ木場地蔵堂

- 本尊 地藏尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか




以前は各家庭でお大師さんの像をもっていたので旧の3月21日には各家庭でお接待をしていたそうです。今はしていません。旧の3月21日には地藏堂が狭いので、隣の善徳院で花や果物でお像を飾っています。この地区では地藏堂のお世話をする順番が決まっています、順番に当たった人が飾りつけをしています。順番の人がお供えをするだけで昼間は誰もいないということです。この地区では各家庭でもお接待をするところはないそうです。

### ▶名所・旧跡

\*「中岳小学校の跡」の碑—1875（明治8）年柿の木場中央部に中岳小学校が建設された。同校は1906（明治39）年松山小学校（1875年・明治8年松山郷中央部に建設された）と合併し、中岳に校舎を新設、校名も山内小学校となった。（岐宿町郷土誌）

\*善徳院—禅宗のお寺で本尊は観世音菩薩。このお寺には破損してはいるが平安期の仏像もあるという。現在住職はいない。近くの神社は毘沙門神社。

72  
番

## 山内柿ノ木場地蔵堂

- 本尊 地藏尊
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか




以前はお接待をしていたそうですが今はしていません。高齢になったりホームに入ったりで、お接待をしてくれる方々がいなくなったからです。今は何人かで1カ月に1回24日に食べ物を持って地蔵堂に集まり、昼ご飯を食べて帰って来るだけだそうです。お経を知っている人が来ればお経をあげますが、普段はただお参りをするだけだそうです。今後の地蔵堂の維持管理が心配されます。

### ▶名所・旧跡

\*この地区は以前はウツボギという所で地元の方は「ウツブン」と言っていた。現在は中岳南部という。



この地区は「どうけん」(お堂の上の方)、「地下」(郵便局周辺)、中尾の3地区に分かれています。旧の3月21日には毎年担当地区を決めて、地蔵堂でお地蔵さんを飾って各家庭で料理を作ってお堂に持って行ってお接待をしています。当日は子供たちは10円を持ってお参りに来てくれる(いわゆる「10円参り」)のでお菓子をあげます。大人たちは地蔵堂にお参りして接待を受けて帰りますが、お参りするのは地区の人たちがほとんどだそうです。この地区の各家庭はお大師さんの像を持っており、お大師さんの日にはお大師さんに外を見せるため、各家庭では外に向けてお大師さんを飾っているそうです。お接待を受けによその家に行ったり、また自分の家にきてもらったりもします。このとき以外、普段お堂に集まることはないそうです。お堂は新しく去年(2015年)できたばかりですので、お札は壁に貼らないようにしているということです。

### ▶名所・旧跡

\*茶々子の墓ついて一年に1回茶々子の屋根を1年おきに今年は裏、来年は表というふうにならでふき替える。今はわらも機械で細かくして米を収穫するのでワラを集めるのが大変です。

78番

## 上ノ平地蔵堂

●本尊 地藏菩薩 ●ご真言 おん かかかび さんま  
えい そわか ●行事 はつかさん(新)毎月20日 に  
じゅうよっかさん(新)24日



毎月、新の20日は「20日さん」(はつかさん)と言ってお大師さんの日、新の24日は「にじゅうよっかさん」と言ってお地蔵さんの日とされている。夕方4時か5時ごろからお参りに行き、20日には般若心経を、24日には地蔵さんのお経をあげています。以前はお堂に入れないぐらいたくさんの方がいたそうですが、今は亡くなったりしてお堂に行く人が少なくなりました。

お大師さんの日については、旧の3月20日にお大師さんを飾って翌日の3月21日にお参りに来てもらいます。ずっと以前はお接待もしていましたが、今は自分たちで料理を作ってお堂に集まり、お経をあげた後集まった人たちで食べてお話しをしています。お大師さんの像を持っている家庭は自分の家庭で飾り、特別なごちそうは作らないが、お大師さんに供えるものだけは作って供えています。

80番

## 小川地蔵堂

●本尊 地藏尊  
●ご真言 おん かかかび さんま えい そわか  
●行事 施餓鬼 8月4日



旧の3月21日のお大師さんの日には特別なことは全然しません。その代わり8月4日施餓鬼をするそうです。「お盆が来たよ」といって先祖を迎えに行く行事です。その日は札所(「おどさま」とよんでいる)のお堂の内側にある像をお堂のそとに出して飾り、大宝寺からお坊さんに来てもらうそうです。盆の13,14,15日の3日間、お大師さんと仏壇を出して団子などを供えて飾っています。以前はこの期間親戚の家々にお線香をあげに行っていた

そうですが、が今はそのようなこともなくなったということです。15日の最後の日はそうめんをたき、色のついた野菜を細かく刻み、お米と一緒に墓に持って行き、木の葉にのせて墓前に供えます。そうめんは亡くなった先祖が墓前に供えた食べ物をあの世に帰る時背中に背負っていくときの綱になるそうです。

### ▶名所・旧跡

\* 保食神社の境内に14体の木造舟形がある。



地区の婦人会が当番で月1回掃除をしています。旧3月21日のお大師さんの日には地蔵堂でお接待をしています。地区を2つに分けて今年はこちらの組、来年はあちらの組というふうにしています。若いお嫁さんもお接待の仕事をしています。他の地区から結婚して来ても、この地区に入れば上の人に倣って世話をするようになります。西福寺の方は寺で料理ができるようになっているので赤飯、煮しめなどは寺で作ります。他の地区からもたくさんのお参り客が来るそうです。

### ▶名所・旧跡

\* 地蔵堂なのに本尊は十一面観世音菩薩である

\* 「手拳仏（てこぶしほとけ）」－右手の仏。兵在形（ひょうじゃがた）の村田地蔵には首地蔵が祀られているが関連は不明。

\* 白岩山（しらいわざん）一標高417m、頂上付近に白く見える大きな岩がある。これが白岩さん。小川原地区の守護神として尊敬されているという。

\* すぐ側に小さな地蔵堂がある－ここでは料理ができないので当番の家で料理を作ってお接待をする。

\* 踊り神の祠について－お堂の中にある説明文より

祭神（乳飲児を背負った婦人 踊っている姿の婦人） 一对同一人 別名子持観音とも称されている

二つには宝暦五年（1755年）郷土史社寺一覧によれば西福寺（本尊十一面観世音菩薩）川原郷民により豊作の祈願寺として建立されており、五島藩より五石三斗一升の禄高を与えられている。それにもかかわらず白穂による不作が続いて年貢米にも事欠き困難を

極めていた折、乳飲児を背負うた一貴婦人川原に來りて折しも郷中田植えの最中の時季で皆さまつかれをいやしてくださいと畦道で踊りを踊ってみせた。これを見た人達はその見事さに日頃のつかれも忘れ、それに不思議なことにその日植えた田圃には一本の白穂もなかったとか。郷民はこの女（ひと）は産土神の使いではとその女（ひと）から踊りを習い、川原地芝居が始まったものであるといわれ。後世の右記の人々（32名の名前あり）がその婦人を踊り神として祠を建立したものと推察するものです。平成十九年旧四月八日 佐々野多郎右衛門記之



## 82番 中須観音堂

- 本尊 釈迦如来
- ご真言 おん あろりきゃ そわか
- 行事 百万遍(旧)3月21日




旧の3月21日のお接待はこの観音堂では以前からしていません。どのようにお堂を使用しているかというのと田の作付が終わった後（2016年は7月2日でした）男たちだけが集まり、稲の豊作を願ってナンマイダ、ナンマイダと言いながら「百万遍」を行います。これをこの地区では「ひっけがんほどき」と呼んでいるそうです。また、時々、厄の人が参ったり、祈願する人が参ったりしているようです。2ヶ月に1回「はつかさん」といって、旧の20日にお堂に参ります。「はつかさん」はお大師さんを供養する日で、ご飯をお供えして、ご詠歌を歌ったり、般若心経を唱えたりした後、お供えしたご飯をみんなで食べて、お話しをしています。ただ、参加者も以前は10名ほどいたそうですが今では6,7名になってしまったそうです。「はつかさん」の中でも、旧の1月20日は「はつかしょうがつ」といって大事にされています。はつかさんは昔は夜にしていたそうですが、今は高齢者が多くなり、足下が危ないので昼にしています。

### ▶名所・旧跡

\*観音堂は「うえんかんさん」、下の福原神社は「したんかんさん」と呼ばれていて、福原神社は白鳥神社の分院です。

\*仏様たちがいる壇に向って左にある侍の形をした石の像は「眼の神様」といわれている。以前は波止にあったのをこの観音堂に持ってきたそうです。

\*一番左のほほをおさえている像は齒の神であるということです。

84番

## 荒川地蔵堂

- 本尊 地蔵菩薩
- ご真言 おん かかかび さんまえい そわか



地蔵堂はお寺の境内にありますが、お寺はお堂の外のゴミなどを掃除する程度で、地蔵堂の中については関知していないということです。この地蔵堂は一人の高齢の女性によってお世話されていたようですが、今は特定の方がお世話するという事も無いようです。

## ▶名所・旧跡

- ・ナガスクジラ（体長27～30m）のあごの骨の屋外展示—昭和30年からの5年間の近代捕鯨でナガス鯨634頭、ザトウクジラ1、イワシくじら1頭を捕獲
- ・温泉一源泉から各家庭に温泉を引いている。月の使用料は3000円だそうです。なお、足湯の温度は41度になっている。

86番

## 玉之浦観音堂

- 本尊 観音菩薩
- ご真言 おん ありきや そわか
- 行事 お大師様(新)4月21日お接待あり



この地区ではお大師さんの日のお接待は新の4月21日にしています。お参りに来てくれた人に気持ちだけしているということです。煮しめ、赤飯などを供えてそれをみんなで食べてお茶を飲んで帰る。参加者が高齢者になって自宅で作ってもお堂まで持って上がれないので自分たちの現状にあったやり方でしています。他所からお参りに来ることはないそうです。

地区を5班に分けていて、班の人で足りない時は他の班の人が助けに行くようにしていますが、高齢者が多いので5班に分けるのも大変だということです。しかし、とにかくお堂

を粗末にしないこと、班を維持していくことが大切だと思って頑張っています。これまでは月に3回お堂に行っていたそうですが、高齢者のことを考えて今年から2回にしたということです。それは、観音様の命日の17日と御不動さんの命日の28日だそうです。お堂に集まった時は観音経、観音経ひけん、般若心経を唱えています。10年ほど前までは寒行の時、白装束の人たちが各家庭の前で般若心経を唱える姿が見られたということです。高齢者が多いのでいつまで観音堂が維持できるか心配されます。

### ▶名所・旧跡

\*玉之浦納の墓—観音堂のすぐ脇にある。

墓碑に刻まれた碑文

「玉之浦 取 公 現 珠 院 心 雄 量 鉄 居 士 永正十六巳卯年四月初二十二日」

\*観音堂に上る途中に地藏堂がある。以下のように書かれている。

「平成20年（2008）七月吉日 地藏堂建立 観音堂墓地関係者一同」

\*西方寺の近くに薬師堂と阿弥陀堂があります。

## 空海の島

くうかいのしま

五島八十八力所 お堂めぐり テキスト

平成二十八年十月

●発行

NPO 法人アクロス五島

●参考資料

福江市史・玉之浦町郷土誌・三井楽町郷土誌・  
富江町郷土誌・岐宿町郷土誌・潮風にふかれ  
て弘法大師とふたり旅

「住民の方々に、聞き取り調査」

●編集後記

1年半の歳月に渡って、各お堂のお世話役さんにお話をうかがいました。お忙しい中、それぞれ地域の習わしや行事等を、快く教えていただき、大変感謝しております。

# 空海の島

五島八十八カ所 お堂めぐり テキスト



NPO法人 アクロス五島

〒853-0014 長崎県五島市三尾野町 998-17  
TEL : 0959-72-7505 FAX : 0959-72-7201  
MAIL : info@goto-acros.net URL : <http://goto-acros.net/>